

おすすめ本紹介

◆テーマ◆

愛しきおじいちゃんおばあちゃん

●おじいさんは川へ、  
おばあさんは山へ  
森山京 作 ささめやゆき 絵  
理論社

書名を見て、あれ？おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に、行くんじゃないか？と思ったあなたは、昔話をよく覚えていて、すばらしいですね。

でも、このお話では、山へ行くのはおばあさん、川へ行くのがおじいさん。というのも、おじいさんは釣りに、おばあさんはきのこ狩りに、出かけたからなんです。

ところが、その日に限って、魚はちっとも釣れないし、きのこも全然みつかりません。やれやれ…仕方がないので、二人とも、ちょっと早めにお弁当をひらいて、ひとやすみすることに…。

さて、この後二人の身に起こる、奇想天外な物語を楽しみたい人は、ちょっとだけ昔話を思い出しておくのもよいかもしれません。いじめられているカメを助けるとどうなるんだっけ？ 天女が着ているのは、なんていう着物だっけ？

●夏の庭  
-The Friends-  
湯本香樹実 作  
徳間書店

小学6年の夏、ぼくと山下、河辺の3人は、おばあさんのお葬式から帰った山下の話をきっかけに、「死ぬってどういうことなのか？」考えるようになりました。そして「もうじき死ぬんじゃないか」と噂されている一人暮らしのおじいさんを見張ることを思い立ちます。

探偵気分でこっそりはじめたこの観察ですが、どうやらそのことに気づいたおじいさん、だんだん元気になってくるみたい。おじいさんの逆襲？に3人は、たじたじですが、やがておじいさんの話に、耳を傾けるようになります。

今から30年近く前に書かれた物語で、海外でも翻訳出版されているほか、映画や舞台にもなった児童文学の名作。

●おばあちゃんのごめんねリスト  
フレドリック バックマン著  
坂本あおい訳 早川書房

エルサは、ハリー・ポッターやヒーローものが大好きな女の子。7歳にしてすでにウィキペディアも使いこなしています。

そんなエルサには、77歳のおばあちゃんがいます。このおばあちゃん、もとお医者さんなのですが、とにかくやるのがハチャメチャ。自宅のベランダから、ペイントボール弾で下を歩く人を狙ったりするのです。でもくまのふちの大地という想像の世界を創って、エルサに毎晩おとぎ話を聞かせてくれます。「変わった子」と言われがちなエルサにとって、ただ一人の、強い味方だったのです。

ですが、そのおばあちゃんが、何通もの手紙をエルサに託して亡くなってしまいます。その手紙は、おばあちゃんが自分の過去の「ごめんねさい」を書き残したものでした。一通ずつ、目的の相手に届けることになったエルサ、さてどんな冒険が始まるのでしょうか？